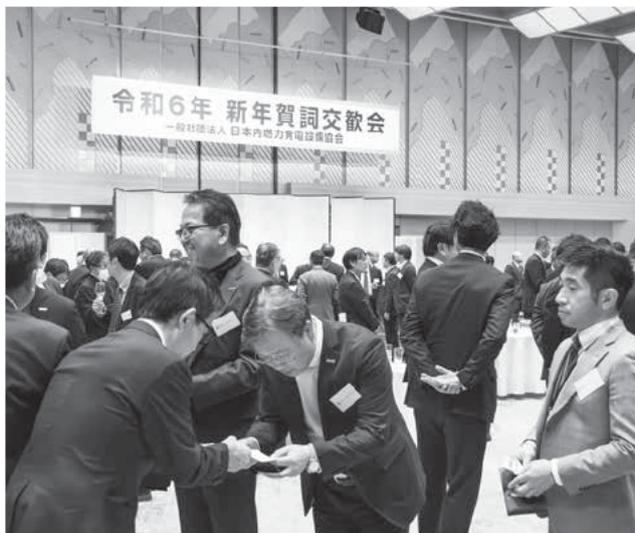


会員・来賓など377人が参加 令和6年新年賀詞交歓会を開催

内発協



会場では名刺交換する光景が多く見受けられた



名刺交換を行う会員参加者と当会理事

一般社団法人日本内燃力発電設備協会（平野正樹会長）は令和6年1月11日（木）17時から、東京・目黒のホテル雅叙園東京において「令和6年新年賀詞交歓会」を開催しました。正会員・賛助会員を始めとして、当協会の委員会委員、経済産業省・国土交通省・東京消防庁、親睦団体からの出席者、事務局職員を合わせて377人が出席して旧交を温めました。

おきまして、多くの方が被災されました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、全ての被災者の皆様方に対して、お見舞い申し上げます。」と令和6年能登半島地震で被災された方々に心よりお見舞いの言葉を述べました。

続いて、塩谷智彦副会長（東京電機株式会社）の発声で全員が乾杯を行い、懇親に移りました。約2時間後、中締めとして、新開修二副会長（三菱重工エンジンシステム株式会社）の音頭で三本締を行い、令和6年新年賀詞交歓会の集いは散会しました。

日本機工株式会社

自家発電設備設計・据付工事・パッケージ消音器・排気消音器・燃料タンク等の製作・保守点検・整備工事

本社 〒105-0012
東京都港区芝大門2-10-1 第一大門ビル
TEL.03(3436)6521 FAX.(3436)6526
栗橋工場 〒349-1103
埼玉県久喜市栗橋東6丁目19番8号
TEL.0480(52)3311 FAX.(52)6810

冒頭で、新春年頭の挨拶に立った平野正樹会長は「年明け早々に能登地域で発生いたしました地震に



写真左から当会有賀理事と職員、来賓の方々

平野正樹会長の新春年頭の挨拶（要旨）

一般社団法人日本内燃力発電設備協会にて会長を務めます平野正樹です。本日は令和6年新年賀詞交歓会の開催にあたりまして、当協会を代表し、新春年頭のご挨拶を申し上げます。

さて、現下の世界情勢を見ますと、紛争が絶えません。ウクライナにおける紛争が終結しない中で、中東では、ハマスによる攻撃が発端となって、パレスチナ自治区ガザにおきまして戦闘状態に突入しました。歴史的な経緯、民族や宗教の違いもございますが、早く紛争が終結に向かうように願っております。

一方、日本におきましては、平和な時代が続いていますが、毎年自然災害が起り、自然災害と無縁とはいえない国でございます。災害は必ず発生するものということを心に留め、万全な対策が必要だと考えます。

自家用発電設備は災害が発生した場合にも、電力の供給に貢献する重要な役割を果たしています。去年の実績を見ましても、災害発生時に非常用自家発電設備は確実に起動し、電気の安定供給に貢献していることが報告されております。

私たち内発協におきましては、非常用自家発電設



あいさつする平野正樹会長

備の普及促進・信頼性向上に努めております。自らの役割の重要性を再認識し、一層気を引き締めて業務に努めたいと思います。

結びとしまして、本年の干支は「辰」でございます。辰が天に昇るたとえのように、皆様方の運気が、上昇することを心より祈念しまして、新春年頭に当たり私の挨拶とさせていただきます。本日はご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

令和6年新年賀詞交歓会 乾杯のご発声

一般社団法人日本内燃力発電設備協会
副会長（東京電機株式会社 代表取締役）

しお や とも ひこ
塩 谷 智 彦 氏

私は内発協の副会長を務めております、株式会社東京電機の塩谷（しおや）と申します。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



年明け1月1日は皆様も同様のことを思われたことと存じます。「元旦早々かよ」と。平野会長から先ほどのお話があったように、近年、日本においては自然災害が毎年のように発生しており、以前は50

年に一度といわれた豪雨災害が毎年のように多発しています。私の地元の茨城県でも、去年は2回豪雨災害に遭いました。

そのような状況の中で、我々内発協に所属している会員企業が設計から製造・供給・保全まで一貫して携わる非常用発電設備、可搬形発電設備については、今回の能登半島地震による災害発生時にも活躍しているものと私は思います。『いざ！という時』のためのライフライン最後の砦であると私は考えております。

多分、今頃は、デンヨー様をはじめ、北越工業様が取り組む可搬形発電設備に加えて、我々会員企業が深く携わる非常用発電設備については、被災地において電力を供給する目的で安全かつ確実に始動し、性能を発揮して使用され続けていることと思います。

弊社、東京電機においては移動用電源車を3台保有しておりますが、石川県に向けて派遣調整中であ

り、本日1月11日の今週末には地震によって被災した現地に向かうものと思います。少しでも早く被災地域が復旧・復興を実現されますようお願いを込めて送り出したいと考えています。

ところで、日本の経済を見ると、本日、皆様ご存じのとおり、株価が3万5千円を突破しました。株価が良い傾向で推移している中で、一方で大規模災害が起きてしまった訳ですけれども、被災地域において今回の災いを一刻も早く吹き飛ばすとともに、我々会員企業のさらなる発展を全員で祈念したいと思います。

能登半島地震により、今回被災された地域住民の皆様の一刻も早い日常生活の復旧と地域社会の復興を願って、また、本日ご出席いただいた会員企業のますますのご発展とご参集いただいた皆様の令和6年一年のご健康を願って、乾杯をしたいと思います。ご唱和ください。

『乾杯！』（一同、乾杯！）

令和6年新年賀詞交歓会 中締め

一般社団法人日本内燃力発電設備協会

副会長（三菱重工エンジンシステム株式会社
発電システム事業部副事業部長）

しん かい しゅう じ
新 開 修 二 氏

私は内発協の副会長を務めさせていただいております、三菱重工エンジンシステム株式会社の新開（しんかい）と申します。本日は内発協の令和6年新年賀詞交歓会に沢山の皆様がお集まりいただいておりますが、ご来賓の皆様は能登半島地震による影響で、大勢の方々がご欠席ということをお聞きいたしました。内発協の会員企業に所属する私どもは、被災地において1日も早い復興をお祈りいたします。

さて、本日1月11日は思い起こせば『鏡開き』の日です。「鏡開きってなんですか」と社内尋ねると、「鏡餅を食べる日だ」という回答が多くかえってきました。さらに「鏡餅を食べるのはなぜですか？」と尋ねたところ、ほとんどの社員が判らない。私も判らないのでインターネットで調べてみました。



皆様の中にはご存知の方々もいらっしゃるかもしれませんが、鏡餅は平安時代からあったそうです。まずはお餅が2つあって、次いで青銅の鏡を携えた神様が正月になると、山から里の各家庭へやって来るそうです。神様が宿るところとして鏡餅をお供えする。神様が山に帰っていくと、神様の恩恵をあずかっているお供え物としてお餅を戴くそうです。そのため鏡餅は捨ててもいけませんし、粗末にしてもいけません。しっかり食べないといけないそうです。

「鏡開きはなぜ1月11日なの？」鏡開きの日は元々1月20日だったそうです。鏡餅を食べる風習は室町時代に武士の風習としてはじまったものだそうです。その後、征夷大将軍の徳川家光が1月20日にお亡くなりになった。その月命日のため鏡開きは20日に行ってはいかんと禁じられたそうです。それに伴

い『歳開き』の1月11日へと変更されたそうです。神様が山にお戻りになった1月11日に鏡餅を皆様で戴きましょうと。

なお、「鏡餅を切ってはいけない」そうです。理由は切腹をイメージさせるからだそうです。元々武家論に倣（なら）うものですので、鏡餅を木槌か何かで砕いて召し上がりなさいと。私も思い起こしてドキッとしました。結婚後は鏡餅を毎年切っていました。もしかしてカミさんから「あなたは毎年私に色々やっていることに対して反省しなさい。身を切りなさい」と言われていたのかと思います。

「なぜ鏡餅と称するのか？」鏡には幸せや平和を現す意味があります。「鏡開きの開くという文字は末広がり」を現します。今後ますますのご発展を祈念する」という意味があるそうです。

本日は1月11日『鏡開き』にかこつけて、お話をさせていただきました。内発協の皆様と新年賀詞交歓会にご参集下さった会員企業の皆様のご活躍を願って、また能登半島地震により、被災した皆様には1日も早い生活基盤の復興と今後のご発展を願って、三本締めで『中締め』とさせていただきます。



写真左から塩谷、新開両副会長と意見交換する会員



中締めを行う新開副会長